

労災疾病等医学研究普及サイトのご案内

「脊椎・脊髄損傷」について

脊椎は脳と末梢神経をつなぐ大切な器官です。脊椎やその中を通る脊髄に損傷を受けると、四肢体幹にだけでなく、膀胱や直腸にまで様々な程度の麻痺を生じます。現在日本には 10 万人以上の脊髄損傷者がいて、毎年 5,000 人以上が新たに脊髄損傷を負っています。わが国では、高齢化に伴って脊髄損傷者がますます増える一方で、少子化による労働人口の減少が懸念されており、高齢者が脊髄損傷とうまく付き合いながら、いかに長く働きやすい社会を実現できるかが課題となっています。

本研究では、こうした高齢者の脊髄損傷と労働の両立という課題について、脊髄損傷の予防という観点から、脊髄・脊椎のデータを集めて研究してきました。

例えば、平成 21 年～平成 25 年の研究では、単純 X 線検査や MRI 検査データを収集し調べたところ、椎体や椎間板・頸椎の大きさや変性度の変化が加齢に伴う傾向がありました。

また、脊椎・脊髄損傷の原因となる「頸椎部脊柱管狭窄症」を評価する基準となる、健常日本人の MRI 計測による基準値を設定しました。

本研究の詳細については、こちらからご覧いただけます。

→https://www.research.johas.go.jp/22_sekizui/index.html